



ニリンソウ *Anemone flaccida*

も く じ

<標本調査報告>埼玉県の「牧野富太郎標本」について・・・P. 2-3

活 動 レ ポ ー ト

総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 3

新役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 4

第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 5

第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 6

第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8

はじめに

牧野富太郎は植物を研究する者ばかりでなく、一般の植物愛好家にとっても、今更解説の必要がないほど有名な人物である。牧野富太郎の年譜の詳細は種々の出版物やネットで検索すれば、たやすく見つけ出すことができる。彼は埼玉県（当時武蔵）にもたびたび採集に出かけていることは文献等を見れば明らかであるが、肝心の実態は不明であった。

牧野富太郎植物採集行動録（明治・大正編）2004年、（昭和編）2005年が出版され、これにより埼玉県内の採集時期と場所が特定できるようになった。しかし、どの程度の標本が残っているのかは依然不明であった。2016年、首都大学東京牧野標本館に連絡を取り、標本データについて問い合わせることができた。その結果、標本館のご厚意により現在までまとめられている埼玉県産のデータ（牧野富太郎採集分）がいただけた。これら进行分析することで牧野富太郎の県内での活動がかなり明確になると思われる。現在データの整理中であるが、その概要を報告する。

牧野富太郎標本の概要

いただいたデータの総数は予想を裏切り（私はもう少し少ないと思っていた）931件で、そのうち和名のわからないものが24件であった。太田和夫氏より受け継いだ「牧野標本館収納標本一覧」（牧野富太郎以外の採集分を含む）は55件のデータであった。標本館の分類体系は新エングレーが用いられているので、それに基づき解析すると延べ数はシダ植物92件（49種類）、裸子植物26件（14種類）、被子植物・離弁花375件（206種類）、合弁花233件（122種類）、単子葉205件（118種類）であった、ただし種類数には亜種、変種、品種、雑種を含んでいる。

牧野標本館のホームページからタイプ標本データベースを検索すると、埼玉県産は13種が探し出せる。そのうち牧野富太郎が採集したものは10種である。

- 1.オサシダ (*Blechnum amabile* Makino) 1888/7/16 武蔵秩父八日見山（埼玉県秩父郡両神山）
標本番号 MAK115263, MAK113468
- 2.ヤマキケマン (*Corydalis japonica* Makino) 1888/7/17 武蔵秩父中津川（秩父郡大滝村中津川）
標本番号 MAK061563
- 3.マルミノヤマゴボウ (*Phytolacca japonica* Makino) 1888/7/18 武州秩父（埼玉県秩父）
標本番号 MAK003902
- 4.オオヒメワラビ (*Athyrium okuboanum* Makino) 1888/7/19 武蔵秩父三峯の麓（秩父郡大滝村三峯）
標本番号 MAK112627
- 5.ミヤマベニシダ (*Nephrodium monticola* Makino) 1888/7/20 武蔵秩父武甲山（秩父郡横瀬町武甲山） 標本番号 MAK110568(220588)
- 6.ケナツノタムラソウ (*Salvia japonica* var. *intermedia* f. *crenata* Makino) 1888/7/20 武蔵武甲山（秩父郡横瀬町武甲山） 標本番号 MAK152342
- 7.エキサイゼリ (*Apodicarpum ikenoi* Makino) 1891/5/1 武蔵戸田原（戸田市戸田原）
標本番号 MAK045049
- 8.ミゾハコベ (*Elatine orientalis* Makino) 1888/9/ 武蔵大宮（中山道）（埼玉県大宮市）
標本番号 MAK061691

9. マムシグサ (*Arisaema serratum* (Thunb.) Schott. f. *thunbergii* Makino) 1894/5/13 野火止武蔵(新座市野火止) 標本番号 MAK042284

10. アカハナワラビ (*Botrychium nipponicum* Makino) 1915/1/12 武蔵北足立郡脚折村大字根岸(埼玉県朝霞市根岸台) 標本番号 MAK144442

以上であるが、現在も学名が生きているのはオサシダ、マルミノヤマゴボウ、オオヒメワラビ、ミヤマベニシダ、エキサイゼリ、アカハナワラビの6種である。

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成28年5月29日(日) 10:00~12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第1会議室

出席者数：会員48名中43名(うち書面による出席16名)

今年は、役員改選の年に当たり新役員の選任が行われた。牧野代表理事が議長を務め、平成27年度事業報告、決算報告、新役員の選任

途中休憩(第2回理事会)

代表理事のあいさつに続き各役員(別紙)の発表があった。

平成28年度事業計画、予算案、などが審議されました。

総会に先立ち「第1回理事会」が下記のように開催されました。

日 時：平成28年5月29日(日) 9:10~10:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第1会議室

出席者数：理事11名中10名(内書面による出席なし)

平成26年度事業報告、決算報告、平成27年度事業計画、予算案、次期新役員の選出順などが審議されました。

総会途中に「第2回理事会」が下記のように開催されました。

日 時：平成28年5月29日(日) 11:10~11:25

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第1会議室

出席者数：理事11名中10名(内書面による出席なし)

新代表理事に牧野彰吾氏を選出

新副代表理事に矢島民夫、米林伸、田仲實、尾形一法の各氏を選出

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成28年5月29日(日) 13:30~15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第1会議室

出席者数：会員27名

- 1 平成27年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書
- 2 平成27年度会計報告、平成28年度予算案
- 3 平成28年度に行うべき業務の打ち合わせを行う。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入について説明がありました。

NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 新役員

任期 2016.07.01～2018.06.30

組 織

| | | | | | |
|-----------|----------------|--------|--------------|------------|-------|
| 顧問 | 邑田 仁 | | | | |
| 代表理事 | 牧野彰吾 | | | | |
| 副代表理事 | 矢島民夫 | 米林 仲 | 田中 實 | 尾形一法 | |
| 理 事 | 金子康子 | 木口博史 | 木村和喜夫 | 島井誠司 | |
| | 杉田 勝 | 山下 裕 | | | |
| 監 事 | 原 由泰 | 森廣信子 | | | |
| 事務局長 | 木村和喜夫* | | | | |
| 事務局次長 | 杉田 勝* | 田中 實* | | | |
| 事務局員 | 尾形一法* (NPO 会計) | | 矢島民夫* (調査会計) | 三上忠仁 (広報) | |
| | 戸来史絵 (総務) | | | | |
| 調査委員 | 尾形一法* | 金子康子* | 木口博史* | 木村和喜夫* | 島井誠司* |
| | 杉田 勝* | 田中 實* | 原 由泰* | 牧野彰吾* | 森廣信子* |
| | 矢島民夫* | 山下 裕* | 米林 仲* | | |
| 調査員 (維管束) | | | | | |
| | 五十嵐勇治 | 石川香保里 | 石川好夫 | 石渡孝行 | 市川栄一 |
| | 岩田豊太郎 | 植田雅浩 | 大河内哲二 | 太田和夫 | 大塚一紀 |
| | 岡田典子 | 尾形一法* | 小澤正幸 | 金子康子* | 菅野治虫 |
| | 木口博史* | 北田義明 | 木村和喜夫* | 木山加奈子 | 篠葉利夫 |
| | 篠原正明 | 渋谷園実 | 杉田 勝* | 須田大樹 | 関口伸一 |
| | 平 誠 | 高杉 茂 | 田中溢子 | 田中 實* | 長須房次郎 |
| | 能見三郎 | 原 由泰* | 福嶋正男 | 戸来史絵* | 牧野彰吾* |
| | 三上忠仁* | 三村昌史 | 森廣信子* | 矢島民夫* | 山下 裕* |
| | 山村良輔 | 米林 仲* | | | |
| | (蘚苔類) | 木口博史* | 木山加奈子* | | |
| | (藻 類) | 中村 武 | 原口和夫 | | |
| | (地衣類) | 木山加奈子* | 吉田考造 | | |
| | (菌 類) | 福島隆一 | | | |
| | (植物群落) | 大須賀宣行 | 島井誠司* | 渋谷園実* | 須田大樹* |
| | | 戸来史絵* | 永戸 健 | 三村昌史* | |
| 運営委員 | 石川香保里* | 大塚一紀* | 尾形一法* | 菅野治虫* | 木口博史* |
| | 木村和喜夫* | 木山加奈子* | 島井誠司* | 杉田 勝* | 平 誠* |
| | 田中 實* | 原 由泰* | 戸来史絵* | 牧野彰吾* | 三上忠仁* |
| | 森廣信子* | 矢島民夫* | 山下 裕* | 五十嵐勇治* (新) | |

(各項、副代表理事・事務局員を除きアイウエオ順 * は再掲)

【第1回 春の公開講座】

日 時：平成 28 年 4 月 2 日（土）9:30～15:00

場 所：寄居町折原地区

参加人数：40 名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事） 天気：くもり

活動内容：春の植物観察会

平成 28 年 4 月 2 日、寄居町のカタクリを守る会の人達を交えて折原地区で観察会が実施された。本部から参加する予定の矢島さんを寄居駅まで迎えに行ったが、行き違いとなり会場まで一人で足を運んでもらうことになった。

当日はどんよりとして今にも雨になりそうな天候であったが、寄居町立歴史資料館の庭には 40 名を越す人たちが集まっていた。

簡単な挨拶の後、私たちは鉢形状の内堀となっていた深沢川の橋を渡り、アズマネザサのブッシュを抜けて土手の起点となっている切り通しに近づいた。アズマネザサの葉を取ってその裏側の短毛の生え方を説明し乍ら目を上げると、土手の斜面のカタクリの花が目に入って来た。数年前に比べ群落の位置が大分上の方へ移動したようである。数年前には眼の高さに沢山の株があったが、4.5mは上昇して土手の頂上近くに群落をつくっている。これはカタクリの種子に付いているリシノール酸の突起を蟻が好み、自分の巣に運び上げている為らしい。一年で 1 m くらいは上昇するという。

カタクリの群落を観察し乍進むと、林業試験場下の水湿地に北米原産の水松の大木が聳えている。落葉する針葉樹で、メタセコイヤに似た葉である。かつては人の膝を立てたような呼吸根が水面から出ていたものである。

舗装道路の手前の斜面には樹齢 150 年といわれるヒガンザクラが今満開である。古い株から 8 本の太い幹が四方に伸び、大きな綿菓子をつかべたような花の塊となっている。

釜伏山に通じる道路に出て次のカタクリ自生地に向う。そこは荒川に浸食された北向きの段丘崖で、道路から最も観察し易い好条件にある。さらに私たちは運動公園下の大群落を見るために歩みを進めた。（文責：高橋重男）



【第2回 自然観察会】

日時：平成28年11月13日（日）

場所：入間市野田「谷田の泉周辺」

参加者：18名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：河岸段丘と湿地の植物観察

西武池袋線、元加治駅に10時に集合し、円照寺→ 上橋の大ケヤキ → 白髭神社 → 谷田の泉（湿地の植物が多数）→ 野田河川公園（湧水）→ アミーゴ → 仏子駅 というコースで行いました。

上橋のケヤキ並木は、太い木が入間川に沿って並んでおり見事です。葉が落ちた後に、ケヤキに寄生しているヤドリキの青々とした姿がきれいに見えます。住宅街を通過して、入間川の河岸段丘面の谷田の泉に到着。水源からの水が近くの農地に流れ、水田や湿地になっています。

秋なので、タカアザミ、ヒメガマ、アキノウナギツカミ、カニクサ、ホシダなどが泉の周りに、紅藻類のカワモズクが小川の中にみられました。ここではススキとオギ、メシバとアキメヒシバ、ガマとヒメガマなどの見分け方を説明しました。また、カラスウリとキカラスウリの区別については、実の色から識別は可能ですが、種子の形の違いや、葉の手触りの違いなど、実物を比べながらじっくり観察しました。

ちなみにキカラスウリの根から取った澱粉を「天花粉てんかふんまたは天瓜粉てんかふん」といい、以前は「あせも」の薬として使用されていましたが、今は利用されていません

（文責：山下 裕）



【第3回 野外観察会】

日時：平成29年3月11日（日）

場所：飯能市 天覧山・多峰主山周辺と飯能郷土博物館

参加者：25名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：冬芽の観察（午前）と飯能の植物講演（午後）

飯能市郷土館に10時集合、歩いて天覧入りから天覧山に上り、郷土館に戻るコースで、午前は、冬芽を中心に観察会を行いました。午後は、郷土館講堂を利用して、これからみられるこのコースの早春の植物から晩秋の植物まで、スライド写真を利用して説明をしました。

比較的天気は穏やかで暖かく、すでに葉を展開し始めている種類もありました。冬芽に関するいろいろな専門用語を簡単に説明し、まず特徴ある木々について観察しました。リョウブの2枚のはがれやすい芽鱗の姿がヤジロベイに似ていたり、アカシデは芽を上から見ると四角だったり、コナラは枝の先端に多数の芽があるなど。また、芽鱗を持たない裸芽を持つ仲間では、すでにはっきりとした葉脈がみられるムラサキシキブ、芽が毛むくじゃらで主芽の後ろに副芽が2～3個あるエゴノキ。他にウグイスカグラ（ヤマウグイスカグラ）、イボタノキ、ゴンズイなどが観察できました。

午後は、郷土館に移動して、このコースで、これから観察できる植物の解説を行いました。今月末からは、シュンラン、アオイスミレを筆頭に、沢沿いや湿地ではヤマリソウやトンボソウ、林の中に見られる、キンラン、ギンラン、ササバギンランなどを中心に、また夏や秋に咲く普通にみられる植物や希少種などの話をしました。

飯能市郷土館は、今までは常設展（民俗）や産業（西川材）などが中心で、飯能の自然については展示スペースはありませんでした。今年から自然（植物・動物・地質）について展示する計画があります。NPOでも、協力できるところは協力していきたいと思えます。

（文責：山下 裕）



【あ と が き】

今年度は増補改訂版「フィールドで使える 図説 植物検索ハンドブック」が増刷されるという、嬉しい話から始まりました。11月には2刷りができあがり、当初の予定は改訂版すら予想できなかったことを思うと、隔世の感があります。

また、毎年繰り返される調査費の不足問題を何とか解決できるように、牧野代表理事はじめ努力しているところです。「侵略的外来生物の調査」をはじめ、来年度からは「環境省の第5次レッドリスト作成現地調査」も始まり、さらなる充実した調査活動が期待されます。

本年も会報「さいたま植物通信43号」を発行することができました。「さいたま植物通信」は毎年2回の発行を考え予算は計上していましたが、今年度も1回のみ発行となりました。当面は年2回の予定ですが、長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしています。

<表紙の写真>

写真は寄居町で、高橋重男先生とご一緒した観察会の時に撮影したものである。埼玉県内にはイチリンソウ（一輪草）、ニリンソウ（二輪草）、サンリンソウ（三輪草）が見られますが、その中では最も普通に見られるのがニリンソウです。名の由来は花茎が1個、2個、3個付くことによるが、必ずしも正確ではなく、ニリンソウにもそれぞれ見受けられます。花の大きさは一輪草>二輪草>三輪草の順番になっています。いずれも白い花をつけるが、花弁は無く、がく片が花弁のように見えるだけです。絶滅危惧種には指定されていませんが、花がきれいなので園芸用に採集されているところも多々見られます。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO.10

2017年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857